

長年農園経営規模拡大プラン

日野町認定農業者 氏名 山吹 長年

1 事業計画書

長年農園経営規模拡大プラン（稲作の拡大と新規ハウレンソウの栽培）

2 はじめに

私は安全安心のお米を栽培し販売したいと考え、日野町の農業担い手として登録していただいておりますが、日野町でも高齢化等による農地の作付け、維持管理ができない農家が増えております。

私は、このような農地の作付けを依頼され、利用権設定により経営規模が拡大してきました。付加価値の高い特別栽培米で生産者の顔が見える食の安心安全をアピールすると共に、農業所得を増やしたいと思っています。

秋の作業受託も年々増える状況の中、臨時雇用で従業者を確保することにより労働力不足に対応すると共に、完全休日を確保するなど魅力的な営農を実践、発信することにより、後継者を確保したいと考えています。

そして、後継者の冬期を中心とした就労と所得対策を考え、1年を通してハウス施設で生産可能な葉物野菜（ハウレンソウ）の導入を行いました。本町は夏季は夜間冷涼な気候がハウレンソウの栽培に適し、冬期も日野川近辺では積雪が比較的すくないことからハウス施設を利用した生産が可能です。また、セル苗を利用した移植栽培で年間作付け回数を増加することにより高い所得を上げることができ、後継者の定着につながることを期待されます。

平成23年は耐雪ハウス1棟（6m×50m）を建て、栽培を始めましたが、初心者ながらも一定の収益を上げることができました。郡内の生産者の方とも知り合いになり、いろいろ話を聞き、栽培面積を増やして頑張ろうという気持ちが強くなりました。減反田はたくさんあるので何とか地域の特産品育成につながっていけばと思います。そして稲作も受託農地も含め650aくらいに拡大し、地域水田の耕作放棄地をなくしたいと思っています。

これらの目標を達成するためにがんばる農家プラン事業を、利用させていただきたいと思いました。

3 生産、経営の現状、課題等

(1) 経営の現状

現在、家族の中では一人で農業に従事しており、平成23年9月1日に日野町の認定農業者に認定され、水稻を中心にした農業経営を営んでおります。

経営内訳は、平成24年状況で水稻390a、白ネギ5a、ハウスでハウレンソウ1.5a、内借入地は390aで、水稻の作業受託を120a受託しています。なお、水稻のすべてを日野特別栽培米として作付しています。

米の平成23年度販売状況はJA5,610kg、個人販売3,960kgです。

(2) 課題等

- 受託農地の分散化による低効率、水稻を中心とした経営展開を図りたいが、市場価格の低下、販路拡大推進の困難性が問題となっている。
- 受託農地の増加に伴う労働力の確保及び体制づくりが課題となっている。
- 農業者の高齢化・後継者不足により農地の作付、維持管理が出来ない農家が増えており耕作地周辺においても荒廃する農地の発生を防止できない状況の中、集落営農の組織化も進まない耕作地域で担い手である私が今まで以上に農地を集積し、農業を守っていかなければならない。
- 青年を1名通年雇用しているが、年間を通じた農作業の確保が課題となっている。
- 米の販路拡大のため米の品質向上が課題となっている。

4 生産・経営等の改善と効果

(1) 改善内容、目標

- 中山間地の地の利を活かし、収量が少なくても付加価値の高い日野川源流地域での良質な特別栽培米を作付けし、高価値化と販路拡大を推進する。
- 農地の集積拡大のための作業効率を高めるため、農機具の高出力化を図り労働力の軽減、安全、労働時間の効率化を推進する。
- 後継者育成として研修生・作業員を受け入れ、栽培指導の受講等による特別栽培野菜に取組み、転作作物の出荷による所得増加を進める。
- 将来、グループ経営を視野に入れ、生産・営業・経理と係を分け、生産では隅々まで目の届く栽培、営業ではインターネット・商談会・イベント等に参加し幅広い販路拡大を進める。経理では複式簿記の導入、経費の無駄を抑え収益の安定化を行い、魅力ある農業経営をめざす。

(目標)

水稻の規模拡大、付加価値の高い特別栽培米の販路拡大により農業収入の安定を図る。

特に、色彩選別機を導入することにより、米の品質向上と販路拡大をめざす。パイプハウス増設による、ハウレンソウの増産による増収を図る。

(経営の概要)

水稻

	23年(実績)	24年	25年	26年
特別栽培米	320a	390a	530a	530a
利用権設定	320a	390a	530a	530a
受託作業	120a	120a	120a	120a
JA出荷	5,610kg	9,000kg	16,000kg	16,000kg
個人販売	3,960kg	4,000kg	4,500kg	5,000kg

野菜

	23年(実績)	24年	25年	26年
ハウレンソウ	-	1.5a	4a	4a
エンサイ	-	1.5a	2a	2a
アスパル	-	1,000kg	3,000kg	3,000kg
個人販売	-	1,500kg	1,500kg	1,500kg

(参考) 上記以外の野菜

	23年(実績)	24年	25年	26年
白ネギ	5a	5a	5a	10a
出荷数量	900kg	900kg	900kg	1,800kg
内JA出荷	900kg	900kg	900kg	1,800kg

(2) 事業の効果(地域への波及効果等)

- 日野町内では高齢化や後継者不足が進んでおり、兼業農家の機械更新が進んでいないことから、担い手として高効率の機械を導入し、利用権設定及び作業受託による規模拡大により地域水田の維持を図り、町内の不耕作地の発生を防止できる。
- 特別栽培米での販路拡大を推進することにより、地域の農業者の先進的、模範的事例になるよう農業経営を進めていくことができる。
- 高収益の転作作物を特産化することにより所得が増大し後継者も確保され、地域の農業振興に貢献できる。

5 具体的な取組みと役割分担

- 農地の利用集積及び農作業受託の増大
県、町、農業委員会の協力を得て、農地の利用集積と農作業受託の拡大を図っていきたい。
- 耐雪パイプハウスの設置
6m×50mのハウスを平成23年に1棟設置した。平成24年にごんぼる農家プラン事業によりハウスを1棟増設しハウレンソウの栽培面積を増やしたい。
- ハウレンソウ栽培の技術の習得
普及所、園芸試験場、農協、あるいは日野郡内ですでにハウレンソウ栽培を行っている農家などから、技術指導を受けていきたい。
- 色彩選別機の導入による高品質米の販売拡充
付加価値の高い日野川源流地域での良質な特別栽培米を作付けし、色彩選別機の導入により米の高品質化と販路拡大を推進する。
- 農の雇用
農作業従事者を年間雇用する。ハウス導入により年間を通じた農作業を創出することができ、雇用を有効に活用することができる。

今後の具体的な取組み

項目	H 2 4	H 2 5	H 2 6	実施主体	支援機関
ハウレンソウ栽培面積拡大	○	○	○	本人	県・町
米の直接販売の拡大		○	○	本人	県・町

(○がんばる農家プラン事業により実施)

支援事業の内容

項目	H 2 4	H 2 5	H 2 6	概算事業費	負担区分
耐雪パイプハウス (6 m×5 0 m)	○			260万円	県1/2、町1/6、個人1/3
色彩選別機		○		250万円	県1/2、町1/6、個人1/3